



西山 颯乙 (にしやま はやと) 由木中央小 2年生

作品名：「このあと どうしちゃおう」を読んで

図 書：このあと どうしちゃおう

しんだあとのよていがおもしろくかいてあったから、これにきめました。

この本は、おじいちゃんがしんじゃったあと、みんなでそのへやをそうじしていたら、「このあとどうしちゃおう」とかかれたノートがあった。そのノートには、天ごくってきつとこんなところ、このあとのよてい、こんなかみさまにいてほしい、とかしんだらどうなりたいかどうしてほしいかがいっぱいかいてあった。

おきにいりのばめんは、こんなかみさまにいてほしいと言うところです。

それは、じ分のたんとうかみさまがしゅみが合う、うたがうまいし空のとびかたもおしえてくれる、色いろそうだんにのってくれたりするところがたのしそうだからです。

ぼくの太すきなじいじもこの前しんじゃって天ごくに行っちゃいました。きつと、お花ばたけでぼくを見まもってくれていると思います。

このおはなしの「天ごくってきつとこんなところ」では、話のおじいちゃんがしんだおばあちゃんに会ってるのを見て、ぼくのじいじもじいじのおとうさんおかあさんに天ごくであって「はっちゃんをおいてこんなに早く天ごくにきてどうするんですか」っておこられてると思います。

ばあばに、ぼくの思ったことを言ったら、「じいじもびょういんで同じことを言ってたよ」って聞きました。それは、「おひざにのせていっしょにテレビを見たかった。」って言ったたそうです。ぼくと同じでうれしかったです。ぼくは、じいじのおひざにすわって、テレビを見るのがーばん好きでした。

今は、ゆうれいセンターに行ってるところだと思います。早く生まれかわりセンターに行って、またぼくのじいじになってかえってきてほしいです。